

# 「藤沢のこれから、1日討論」 討論資料



## この資料について

1. この資料は、討論型世論調査「藤沢のこれから、1日討論」参加者の方に、藤沢の現状と将来像に関する情報を提供し、討論の参考にしていただくために慶應義塾大学DP研究会が編集したものです。
2. この資料は、「1. はじめに」、「2. 「藤沢のこれから、1日討論」当日の論点」、別冊「藤沢に関するデータ集」から構成されています。
3. この資料は、あくまで討論の参考のために作成したものであり、すべての論点を網羅してはいません。「藤沢のこれから、1日討論」当日は、この資料に書かれていることに限らず、ご自由に発言ください。
4. この資料は「藤沢のこれから、1日討論」用に作成したものです。無断転載・引用・複製は固くお断りいたします。

2010年（平成22年）1月30日（土）

藤沢市経営企画課・慶應義塾大学DP研究会

## 「藤沢のこれから、1日討論」 討論資料 目次

### 1. はじめに(3ページ~5ページ)

- ①「藤沢のこれから、1日討論」の目的
- ②なぜ、この討論集会が重要か
- ③進むべき道筋の議論
- ④この企画の運営方法は？
- ⑤当日の予定

### 2. 「藤沢のこれから、1日討論」当日の論点(6ページ~17ページ)

- 1) 何を討論するべきか
- 2) 「藤沢のいま」を考え、打つべき手について議論する(午前のテーマ)
  - 論点1 「藤沢の課題」は何か
  - 論点2 「藤沢の良さ」は何か
- 3) 「藤沢のこれから」を考え、討論する(午後のテーマ)
  - 論点1
    - 「a. 現役の世代のために充実した行政サービスを維持することが重要」か、
    - 「b. 将来世代のために健全な財政状況を維持することが重要」か
  - 論点2
    - 「c. 藤沢市の運営は、市全体を一体として考えるべき」か、「d. 市を分権化して、地域の生活に根ざした単位を中心にすべき」か
  - 論点3
    - 「e. 手厚い行政サービスの方が良いので、税金などの負担はもっと増えても良い」か、「f. 行政サービスの充実よりも、税金などの負担がもっと少ないほうが良い」か
  - 論点4
    - 「g. これまでどおり道路や公共施設などのハード面のインフラ整備が必要である」か、「h. 今後はハード面のインフラ整備よりも、社会保障や教育のシステム(仕組み)などソフト面の充実を目指すべきである」か

別冊 藤沢に関するデータ集

## 1. はじめに

### ①「藤沢のこれから、1日討論」の目的

「藤沢のこれから、1日討論」（藤沢DP）は藤沢市が、慶應義塾大学DP研究会と協力して実施する、市民の方々の意見調査を目的とした討論集会です。今、藤沢市では、新しい総合計画を策定していますが、市民の方々の意見を知るためにさまざまな方法を行っています。その一つの方法が、「討論型世論調査」と名付けられた今回行われる調査です。「討論型世論調査」（Deliberative Polling®）とはスタンフォード大学の政治学者フィッシュキン（James S. Fishkin）らによって考案された新たな世論調査の手法で、同大学の「討論民主主義センター」が定めた基準に従って運営されています。この調査は、すでに世界で35回以上実施されていますが、日本では、昨年12月5日に神奈川県が初めて実施し、市町村では今回の藤沢DPが全国初となります。

### ②なぜ、この討論集会が重要か

藤沢市では日頃、意見提案をインターネットなどで受けつけたり、何か計画を作る際には、パブリックコメントを実施したりしていますが、一般の市民の方々の声はなかなか政治や行政に伝わりにくいものです。また、日頃忙しくて、集会に出向くことが難しい方が多いのも確かです。その意味で、今回の総合計画の策定過程で、市民の皆さまが討論資料を読み、さまざまに意見を交換した上で、どのような方向性を望むのかを調べることはとても重要であると考えています。また、無作為で参加者を選んでいきますので、一般的な市民の方々のご意見を代表するものであると考えています。

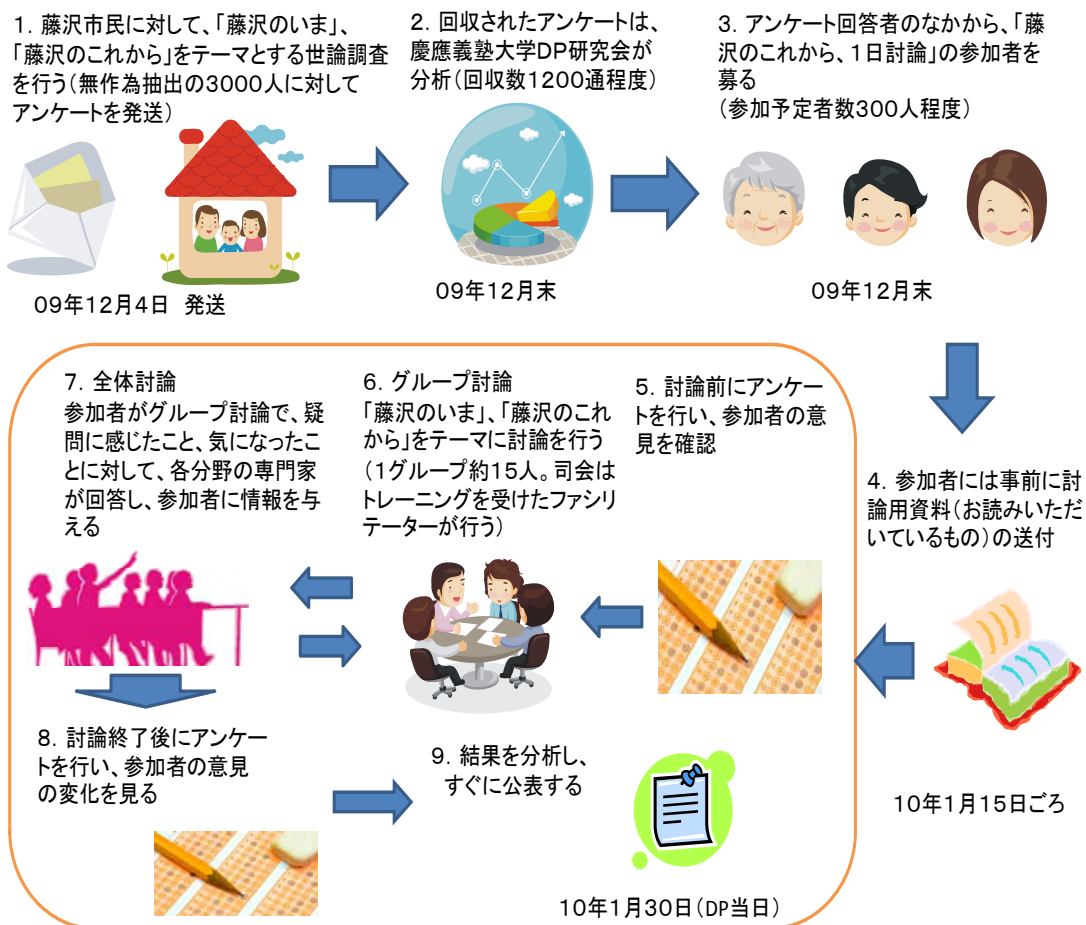
### ③進むべき道筋の議論

今回の討論集会は、「藤沢のいま」と「藤沢のこれから」という大きなことをテーマとしていますので、具体的にどのような政策を採用すべきか、市は何をなすべきか、というようなことは直接には討論しません。

むしろ、「藤沢のいま」では、現状をどのように感じているか、それに対して、どのような方向に進むべきと考えているかという意見を求めています。また、「藤沢のこれから」は難しい選択を迫るテーマですが、ここでの選択とは、大きな方向性について道筋を見出そうというものです。

この「方向性」は、新しい総合計画に活用することを目的としています。

#### ④この企画の運営方法は？



※グループ討論は相手を言い負かすことや、グループの合意形成をはかることが目的ではありません。さまざまな意見を聞く機会を設け、じっくりと考え、討論してみることに意味があります。

※全体討論の専門家はさまざまな立場を考慮して、異なる意見の方がバランス良く配置されるように工夫しています。

※藤沢DP当日に行うアンケートは、通常の世論調査同様に、統計的な処理を行いませんので、誰が何を回答したのかは分かりません。

### ⑤当日の予定

朝から夕方まで1日がかかりで、じっくりと討論を行います。長時間にわたり、また立て込んだスケジュールとなりますが、ご協力をよろしく申し上げます。

9:00	受付
9:20	オリエンテーション・討論前アンケート
10:00-11:30	グループ討論・「藤沢のいま」
11:40-12:50	全体討論 昼食
13:45-15:15	グループ討論・「藤沢のこれから」
15:30-17:00	全体討論
17:00-17:30	挨拶 討論後アンケート

## 2. 「藤沢のこれから、1日討論」当日の論点

### 1) 何を討論するべきか

将来の政策を決めるためには、現状認識がしっかりしていなければなりません。しかし、同じ情報を手にしても、異なる解釈が出てくることがあります。例えば、『日経グローバル』の調査によれば、藤沢市はサステナブル度（持続可能性度）の総合スコアで全国6位に位置します。

サステナブル度(総合評価)ベスト10

総合順位	自治体名(都道府県)	総合スコア		環境保全度スコア		社会安定度スコア		経済豊かさ度スコア	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1	2 武蔵野市(東京)	62.1	60.9	64.8	58.7	54.1	52.1	64.8	74.1
2	1 三鷹市(東京)	61.4	61.2	68.8	67.1	51.2	48.1	56.8	62.3
3	5 豊田市(愛知)	61.2	58.7	60.3	57.4	49.2	50.5	75.1	69.6
4	47 鎌倉市(神奈川)	59.7	54.1	64.8	52.1	51.3	50.3	57.9	61.8
5	7 日野市(東京)	59.6	57.1	64.8	57.5	50.2	47.8	58.5	65.4
6	- 藤沢市(神奈川)	59.1	-	63.9	-	50.6	-	58.1	-
7	65 名古屋市(愛知)	58.7	53.6	62.7	59.8	49.8	48.0	59.7	46.8
8	8 田原市(愛知)	58.6	57.0	53.5	56.2	53.2	54.0	74.2	61.4
9	- 府中市(東京)	58.4	-	61.5	-	53.1	-	57.6	-
10	39 吹田市(大阪)	58.3	54.5	61.5	53.0	50.5	50.0	59.5	62.0

(注) -は前回調査で回答なかった自治体。

※『日経グローバル 139号』（2010年1月4日）8ページより

これを見て、「今のままで良い」という意見と、「良い点をもっと積極的に伸ばすべきだ」という意見に分かれる可能性があります。さらに、「良い点をもっと伸ばすべき」という意見の中にも、具体的な「良い点」については意見が分かれる可能性もあるでしょう。

今回の藤沢DPの目的は、意見の違いをまとめることではありません。討論資料などを参考にして、市民の皆さんがご自分の考えをまとめて、述べていただくことが大事なのです。

先ほど、「何が『良い点』か、についてはさまざまな意見があるはず」と述べましたが、もう一方で、現状の藤沢に危機感を持っている方も多いと思います。全国の中では、比較的恵まれた状況にあるとはいっても、「その現状認識は甘い」、「危機はすぐそこまで来ている」と、きわめて深刻に考えている方がいることも確かです。

藤沢DPの参加者の方にも、課題や問題について、さまざまな立場や意見をお持ちだと思います。ある方は少子化を問題にし、ある方は、商業の落ち込みが重大と考えるかもしれません。

議論をするためには根拠となる材料が必要です。別冊の「藤沢に関するデータ集」はそのために準備したのですが、当然のことながらこの資料ですべての論点、データを網羅することはできません。

この討論集会では、ご自分の意見を述べるだけでなく、他の方の意見に耳を傾けたり、全体討論で専門家に質問をぶつけ、疑問点を確認したりすることも大切です。

## 2) 「藤沢のいま」を考え、打つべき手について議論する（午前のテーマ）

### 論点1 「藤沢の課題」は何か

藤沢の現状を考えると、解決すべき課題がたくさんあります。今すぐ対処すべきことから、将来のことまで、数多くの課題がありますが、人によってはその優先順位が違ってきます。例えば、現状の交通渋滞をあげる方、保育所の待機児童を問題とする方、もっと中長期の課題として、高齢化が急速に進む傾向に警鐘を鳴らす方、少子化を危惧する方などさまざまです。

現状をしっかりと把握してはじめて、次に打つべき手が決まってきます。藤沢にとって、いま何が問題なのか考えましょう。そして、打つべき手を探しましょう。

藤沢市の直面する問題や課題はたくさんありますが、ここでは、代表的な5つの課題について述べます。これらを参考にして、これ以外にもある藤沢の抱える課題について考え、討論してみましょう。

#### 課題1【人口減少・少子高齢化社会の到来】

- ・ 藤沢市の人口は、今後も増加傾向で推移しますが、2020年頃には、約41万7000人となり、その後は減少します。
- ・ 藤沢市の65歳以上の高齢者の人口は、2005年は16.5%でしたが、2035年には、32.4%と増加することが予測されています。
- ・ 藤沢市の0歳～14歳の年少者の人口は、2005年は14.1%でしたが、2035年には、9.6%に減少することが予測されています。

⇒別冊 1～3ページ参照

#### 課題2【経済・産業構造の激変】

- ・ 長期的にみると、工業事業所数と工業製品出荷額は減少し続けており、農林水産業に携わる人は1970年代から、製造業や建設業に携わる人は1990年代から減少しています。この傾向は今後も続くことが見込まれます。
- ・ 小売業、サービス業に携わる人は増加し続けていますが、今後は人口減少によって緩やかな減少傾向となり、2025年度以降は大きく減少していくことが予測されます。

⇒別冊 4～5ページ参照



### 課題3【厳しくなる藤沢の財政状況】

- ・ 2008年後半から始まった景気低迷の影響により、藤沢市の企業の経営状態が急速に悪化し、企業が納める税金（法人市民税）も激減しました。
- ・ 景気低迷は今後も長引く可能性が高く、市民の所得が減少し、市民が納める税金（個人市民税）も少なくなることが予想されます。
- ・ また、景気の影響だけでなく、高齢化の進展や正規雇用者の減少などの理由によっても個人市民税が減収傾向になることが予測されます。

⇒別冊 6～8ページ参照

### 課題4【公共施設などの老朽化】

- ・ 藤沢市が保有する建物のうち、旧耐震基準で建設された建物が57%、新耐震基準で建設された建物が43%です。
- ・ 築年数で考えてみると、一般に建物の寿命とされる築30年以上の建物が約41万㎡（52.3%）となっており、市の保有する建物の大半が古くなっていると言えます。

⇒別冊 9～10ページ参照

### 課題5【その他の一般的課題】

- ・ 環境問題⇒11～13ページ参照
  - ・ 治安問題⇒14～16ページ参照
- などがあります。

## 論点2 「藤沢の良さ」は何か

藤沢の問題点や課題の把握も重要ですが、藤沢の良さをきちんと理解することも大切です。今後、藤沢の良さを伸ばしていくことを政策の中心に据えることも一つの選択肢です。

藤沢の良さとは何でしょうか。藤沢の良さに関する考え方や藤沢市と他都市とを比較した資料、藤沢の良さを示すデータを参考にして、藤沢の良さについて考えてみてください。そして、あなたが考える藤沢の良さのうち、どの良さを伸ばすべきか考えてみましょう。

### ■「藤沢の良さ」に関する考え方

以下は、ある会議で出てきた「藤沢の良さ」10項目です。これは一例ですが、これらを参考に、藤沢の良さを考えてみましょう。

#### □自然の豊かさと多様性による快適性

豊かな相模湾と丘陵、北部のみどりに囲まれた、空と海、みどりによる、癒された、うるおいのある生活が醸成されている。

#### □交通ネットワークの充実と発展

交通システムの整備にもとづく都市基盤の強化・充実がなされており、今後ともさがみ縦貫道や藤沢厚木線の開通による道路整備、湘南台以西への相模鉄道の延伸など、交通システムの延伸により都市基盤の強化、充実が見込まれる。

⇒別冊 17ページ参照

#### □湘南・江の島のブランド力と魅力

江の島は観光資源としての価値が高く、島自体にストーリー性やテーマパーク的な要素を有するとともに、藤沢のランドマークとして、藤沢市民としての地元の意識を醸成する効果がある。

また、全国区である「湘南」のブランドを有しており、そのブランドイメージが、発展性を感じさせることによって、一層のブランド力を高めていると思われる。

マス・コミュニケーションによる影響もあり、湘南・江の島は継続的なブランド力を有している。

⇒別冊 18ページ参照

#### ④ 産業のバランスと誘致・転換の能力

湘南C-Xの整備や武田薬品工業研究所の進出等、工業都市から新産業都市への転換と、市内4大学との連携等に基づく、産官学の連携によって発展する都市への転換の礎が築かれている。

#### ⑤ 市民力・地域力・市民経営の充実

公共施設及びサービスを実施するとともに、共生、協働による、市民参加のまちづくりが続けられている。

⇒別冊 19ページ参照

#### ⑥ 財政力と健全性

経済状況が非常に厳しい中、財政力指数を維持しつつ、健全な財政運営を進めている。

⇒別冊 6～8、25、27～28、33～35ページ参照

#### ⑦ 文化と風土の形成

歴史的な文化に加え、湘南のイメージから派生する風土やアイデンティティが形成されている。

#### ⑧ 高い教育環境・学園都市としての大学の充実

私立学校を含めた、教育施設、教育機関が多いことから、教育意識の高さ、大学生の在学、在住による「若い力」の存在が潜在能力としてある。

#### ⑨ 子育て・医療制度の充実

子育て支援制度や医療制度、医療施設について、比較的充実しており、今後の少子高齢化に対して期待が持てる。

⇒別冊 20～24ページ参照

#### ⑩ 近隣市による機会

横浜市、鎌倉市、茅ヶ崎市等、近隣市が有名であるため、商業、観光等によるビジネス・チャンスがある。

※出典：藤沢市庁内会議「わいわい・がやがや・わくわく会議」資料より

## ■ 藤沢市と他都市との比較

次に、藤沢市と人口規模が同じくらいの他の都市とを比較した資料を見て「藤沢の良さ」について考えてみましょう。

### 【住み良さランキング（2009年）】

	総合評価	安心度	利便度	快適度	富裕度	住居水準 充実度
藤沢市	359位	727位	472位	87位	29位	703位
横須賀市	512位	636位	614位	224位	185位	544位
町田市	225位	758位	106位	71位	39位	715位

※「都市データパック2009」東洋経済新報社より

### 「住み良さランキング」から読み取れる藤沢市の全国における位置

藤沢市は、総合評価で見ると全国の都市806市区のうち、359位です。神奈川県内の19市区のうちでは、9位です（神奈川県の1位は、鎌倉市の77位）。このことから藤沢市は、日本の平均に近い自治体であると言えます。

### 「住み良さランキング」で見る藤沢市の「良さ」

では、藤沢市の「良さ」は何なのでしょう。藤沢市の「良さ」は、快適度と富裕度の順位の高さに現れていると考えられます。快適度と富裕度の高さがどういう意味を持つか考えてみましょう。

まず、快適度は、どれだけその都市に住む人が快適に過ごしているかを示すものです。快適度が高い藤沢市は、それだけ住む環境が整っていると考えることができます。

次に、富裕度は、どれだけその都市に使えるお金があるかを示すものです。富裕度が高い藤沢市は、それだけ自由に使えるお金が多いと言えます。

### 3) 「藤沢のこれから」を考え、討論する（午後のテーマ）

#### 「藤沢のこれから」をどう描くか

「藤沢のこれから」を考える時に、具体的な政策課題やそれへの対策も重要ですが、政策の基本的な方向性を整理する必要があります。まずここで、今回取り上げる立場の違いを整理します。

- 論点 1    a. 現役の世代のために充実した行政サービスを維持することが重要  
          b. 将来世代のために健全な財政状況を維持することが重要
- 論点 2    c. 藤沢市の運営は、市全体を一体として考えるべき  
          d. 市を分権化して、地域の生活に根ざした単位を中心にすべき
- 論点 3    e. 手厚い行政サービスの方が良いので、税金などの負担はもっと増えても良い  
          f. 行政サービスの充実よりも、税金などの負担がもっと少ないほうが良い
- 論点 4    g. これまでどおり道路や公共施設などのハード面のインフラ整備が必要である  
          h. 今後はハード面のインフラ整備よりも、社会保障や教育のシステム（仕組み）などソフト面の充実を目指すべきである。

この4つの論点をめぐる議論の結果次第で、今後10年、20年にわたる藤沢の方向性が見えてきます。この対比は、あくまでも、「強いて選ぶとしたら、どちらでしょうか」という問題を考えるために設定しています。もちろん、豊富な財源や資源があったら、どちらの選択枝も採用することもできますが、今後は限られた資源の中で苦しい選択をしなければならない時がやってきます。ですから、あくまでも、仮に「いま強いて決断するとしたら」という条件で討論をいただくものです。

## 論点 1

- a. 現代の世代のために充実した行政サービスを維持することが重要
- b. 将来世代のために健全な財政状況を維持することが重要

### ■論点 1 の意味

- ・ 将来のことは将来考えれば良いという立場と、将来のことであっても今から手を打つべきだという考えに大きく分かれます。
- ・ 平等な参加が保証されている現在の民主主義でも、選挙に参加できるのは20歳以上の有権者です。選挙に参加できない子どもたちや、将来世代に大きく関わる、「将来問題」も現代の有権者が対応を決めるしかありません。
- ・ 一般的に、有権者は現状の問題を考えて投票する傾向があります。そうすると、財政に問題があることは分かっているにもかかわらず増税を避けたり、環境問題などやっかいなことは、先送りしたりしてしまうことが多いようです。

⇒別冊 6～8、25ページ参照

### ■現役世代を重視する立場（意見a）

その理由は？

- ・ いまある課題を解決することを優先すべきで、30年後のことや50年後のことは考えてもどうなるか分かりません。遠い将来の問題は、将来の世代がその時に解決すれば良いのです。
- ・ 今の政治にできることは、現在の市民の多数が選んだ選択肢を実行することであり、その中から優先される政策を実行することが重要です。
- ・ 高齢化が急激に進む現状を考えると、現代においてたくさんの問題が発生すると考えられます。それをどう解決すべきか、ということがもっとも優先されることです。

### ■将来世代を重視する立場（意見b）

その理由は？

- ・ 政策課題のなかには、年金や介護など少子高齢化による問題をはらんでいるものがあります。いまからその対応を考えないと、将来世代が非常に厳しい状況におかれると考えられます。
- ・ 国や地方の借金のうち、家計で言うと生活費に充てるもの（赤字補填分）は、現役世代がそれを使い、将来世代が借金を返すという、将来世代に負担を回す構造になっていて、将来世代の負担はますます増加します。
- ・ 環境問題も、一度環境が悪化するとそれを元に戻すには非常に難しいという特徴があるので、現役の世代がいまから環境に配慮した対策をしなければ将来世代が大きな環境問題に直面する恐れがあります。

## 論点 2

- c. 藤沢市の運営は、市全体を一体として考えるべき
- d. 市を分権化して、地域の生活に根ざした単位を中心にすべき

### ■ 論点 2 の意味

- ・ 藤沢市はこれまで市を一つの単位として市の運営をしてきました。
- ・ しかし、藤沢市は自治体の規模としてはかなり大きく、同じ藤沢市のなかにも多様な特徴を持った地域があります。
- ・ 藤沢市一律の基準でやるべきことは市が担当し、地域ができることは地域がやるというやり方で、藤沢全体と藤沢の各地域の運営を考えていった方が良いという意見もあります。

⇒別冊 26ページ参照

### ■ 藤沢市一律で決めた方が良いという立場（意見c）

その理由は？

- ・ 藤沢市役所や市議会が各地域の情報を集めて、藤沢市全体のバランスを調整しながら政策を実施できるため、どの地域でもほぼ同水準のサービスを提供することができます。
- ・ 藤沢市役所や市議会が、政策や行政サービスに関して大きな責任を負うことで、藤沢の人々は安心して自分たちの生活を送ることができます。
- ・ 分権化すると藤沢市の中で公共サービスが充実している地域と、そうではない地域が生まれ、地域間や住民間で不公平感が高まる可能性があります。

### ■ 分権化して、地域の住民に近い単位で自律的に運営すべきという立場（意見d）

その理由は？

- ・ 行政を分権化することで、地域の市民が自ら地域の運営に関わりやすくなります。
- ・ 地域に運営の権限が任せられれば、地域の市民に責任意識が生れ、地域の運営を真剣に考えられるようになります
- ・ 地域からの発想で、主体的にさまざまな資源や情報を使いこなすことができるようになります。
- ・ 藤沢市の特色ある各地域が、それぞれ地域の運営を考えることができるので、藤沢市内にある地域の多様性がさらに際だつようになります

### 論点3

- e. 手厚い行政サービスの方が良いので、税金などの負担はもっと増えても良い
- f. 行政サービスの充実よりも、税金などの負担がもっと少ないほうが良い

#### ■論点3の意味

- ・ 今後の藤沢市は、市の税収は減少していくという傾向があります。
- ・ 現在の水準の行政サービスを維持する、あるいは現在よりもより良い行政サービスを実現するためには、増税などの負担増によって市民の負担を増やすことが避けられないでしょう。
- ・ その一方で、もし増税などの負担増をしないという選択をするのであれば、行政サービスの水準は現在よりも低いものにならざるを得ません。

⇒別冊 27～32ページ参照

#### ■手厚いサービスが良いから税金などの負担はもっとしても良いという立場 (意見e)

その理由は？

- ・ 今の国民や市民の意向を尊重すれば、国や地方政府がやるべき行政のサービスは、ますます大きくなる傾向にあります。例えば、今後、国でも藤沢市でも医療・介護などの支出が大きくなっていきます。その他にも、教育や環境など、行政に期待されていることは沢山あります。
- ・ その資金を確保するためには、増税などの負担増が考えられます。
- ・ 国や藤沢市の借金による将来世代への負担を少なくするため早めに増税をして、そのお金で返済を進めていく必要があります。

#### ■行政サービスの充実よりも、税金などの負担は少ない方が良いという立場 (意見f)

その理由は？

- ・ 現在、行政は必要以上のサービスを行っており、そのなかには行政が本来やらなくても良いサービスがかなりあるので、行政サービスは減らされても良いです。
- ・ これまで行政が税金を使って行ってきた仕事を、市民やNPOなどが積極的に担っていけば、行政の仕事を減らしても現在の行政サービスの水準を維持できます。
- ・ 税金などの負担が少なくなると、藤沢で暮らそうと思う人や、藤沢に進出しようとする企業が増えることが期待できます。



#### 論点 4

- g. これまでどおり道路や公共施設などのハード面のインフラ整備が必要である
- h. 今後はハード面のインフラ整備よりも、社会保障や教育のシステム（仕組み）などソフト面の充実を目指すべきである

#### ■論点 4 の意味

- ・ 行政が市民生活を支えるために行うべき投資は、大きく分けると、道路や公共施設などの「モノへの投資」、社会保障（医療や介護）や教育などの「システムや人への投資」に分けられます。
- ・ 「モノへの投資」と「システムへの投資」は、どちらも人々の生活を支える重要な基盤ですが、今後の藤沢市では「あれもこれもの選択」は難しいと考えられるので、将来に向けてどちらの投資を重視するかを決める必要があります。

⇒別冊 6～8、33～37ページ参照

#### ■「モノへの投資」が必要だという立場（意見g）

その理由は？

- ・ 道路や公共施設の整備はまだ不十分で、行政がしっかりと整備を行うべきです。
- ・ 道路や公共施設は現代の世代だけではなく、将来の世代も使うことができるので、将来への財産となります。
- ・ 藤沢市の公共施設の多くは市民が頻繁に使っているものが多く、利用頻度が高い施設にはさらなる投資が必要になります。

⇒別冊 10ページ参照

#### ■「システム（仕組み）などソフト面への投資」が必要だという立場（意見h）

その理由は？

- ・ 将来への投資は、社会保障の制度や教育などのシステムに行った方が、今すぐ効果はでないとしても、長期的に見れば大きな効果が期待できます。
- ・ モノへ投資をしても、それを使ったり動かしたりするためにはシステムが必要です。システムへの投資と工夫がないと、役に立たないモノが残るだけです。